

川崎異業種研究会（略称：川異研）は、昭和62年7月に設立した当所会員企業から集まった異業種交流のグループです。

川崎異業種研究会のホームページ <http://www.kawaiken.jp/>

1月理事会

平成30年、年が明けて最初の理事会は、1月11日(木)午後6時より役員12名の参加者を得て、天龍本館(川崎区)にて開催された。

菅原会長による議事進行のもと、①次年度会長人事、②次年度事業方針、③総会、④2・3月定例会について議論がなされた。次年度は、これまで以上に会員に喜ばれる会を目指し、新しい企画も今後提案されそう。新年を祝うとともに今後の川異研に希望を込めて、心をひとつにした。

2月定例会 *** 拡大講演会を開催 ***

2月15日(木)午後5時より当所にて2月定例会を開催した。2月は、例年移動例会として市内外を視察しているが、今年度は新企画として拡大講演会を行った。参加対象をメンバー企業の従業員、ミドルマネジメントにまで広げ、時間も拡大した。従業員同伴で参加する会員も複数あり、会員19名、オブザーバー2名、見学者1名が参加した。

講師に、慶應大学SFC研究所・上席所員でANA総合研究所の客員研究員、永石尚子氏を迎えた。テーマは「組織と人がハッピーになるホスピタリティ・マネジメント」。元ANA客室乗務員として11年半の乗務歴を持つ講師が培ったヒューマンスキルを始め、様々な企業事例を紹介しながら講義は進んだ。



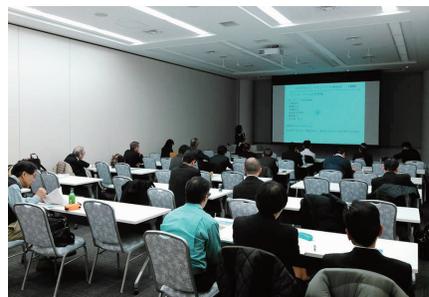
講師の永石尚子氏

「ホスピタリティ」と聞くと「おもてなし」という、サービス産業の領域のものというイメージがあるが、実はそれだけにとどまるものではない。ホスピタリティとは、相手の喜びが自身の幸せとなる、関わる人や地域社会との相互満足につながる考え方である。講師はホスピタリティの概論を、実例をあげながら丁寧に説明された。

その後、ホスピタリティを経営に取り入れている実践例を紹介された。自社の社員やスタッフを第一の顧客としてとらえ、「私たちは従業員を敬い、尊敬し、慈しむ。従業員はこれと同じ態度ですべての顧客に接することを期待する」と記された「従業員へ」というメッセ

ージがある企業事例、東日本大震災時、大勢の来場者に対し安全性を最優先し従業員自らの判断で工夫し、即座に動いた事例、また、従業員の人事評価軸として、数字として表れにくいホスピタリティ、潜在的な貢献も評価する仕組みを作っている企業例など、豊富な実践例が紹介された。

参加者は、大変貴重な話を聞いた、自分の日常業務を振り返り刺激を受けた、ホスピタリティに満ちた実践例のひとつに目頭が熱くなったなど、反響が大きく有意義な講演会となった。その後の懇親会では、講師も参加されより深い交流ができた。



熱心に耳を傾ける参加者

2月分科会

2月1日(木)午後6時半より会員9名、和光大学生6名の参加者を得て当所にて2月分科会を開催した。今回は、当会の会員であるタিজ株式会社より橋本大樹氏を迎え「日本のおもてなしの精神(こころ)」と題し講演が行われた。

同社の事業内容は設立当初、電気タオル蒸し器の販売であったが、「おもてなし」のこころをテーマに、健康、衛生、安全、環境に配慮した商品開発を進めていくことで、お客様に喜ばれる製品を開発することができるようになった事や、その商品についてご講義いただいた。講演後の懇親会では、偶然お店にタিজ社製のタオル蒸し器が設置されており、参加者一同大いに盛り上がった。



分科会講義の様子

加入のお問い合わせは

事務局：麻生支所 TEL 044-952-1191